

# 高知県の教育課題の解決に向けた 教育委員会の指導体制

千々布敏弥

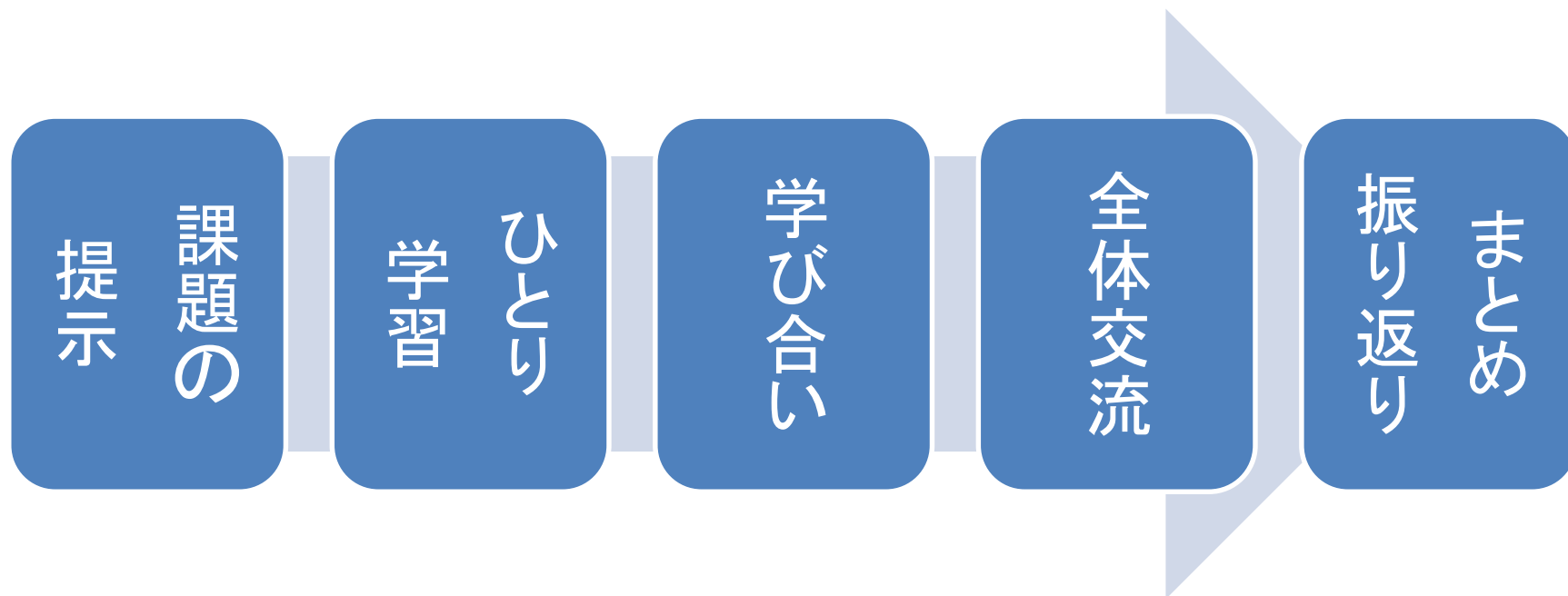
国立教育政策研究所

# 本日の内容

1. 高知県の教育課題の解決に向けて
2. 目指す授業が実施されるための学校経営の重要性
  - 秋田、福井は県全体の学校の水準が高い→一部の研究校、一部の教員の力量が向上するだけでは県の水準は向上しない
  - 県の体制→学校の体制→教師集団の文化→個々の授業→児童生徒の学力の連関構造を意識する
3. 目指す学校経営が行われるための都道府県の体制

1. 高知県の教育課題(「知」・「徳」・「体」の向上等)の解決に向けてどのような対策を行うか

# 秋田では1時間完結の授業が行われている

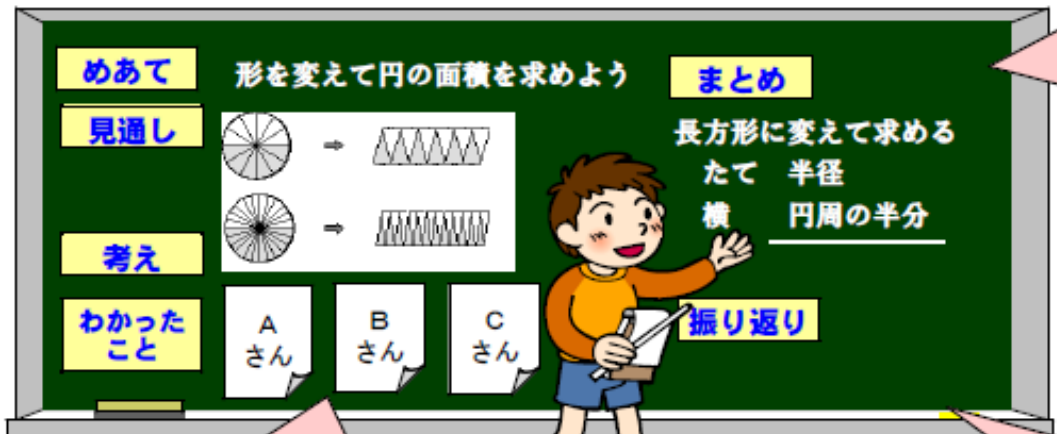


学力と相関が見られる、めあての提示、ノート指導、グループ活動、振り返りは、秋田県、大分県、沖縄県の実施率が高い。

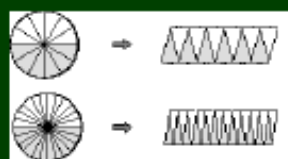
高知県は低い。(実は福井県も低い)

# 秋田県は授業モデルと板書モデルを県が提示

よい板書を目指して



**めあて** 形を変えて円の面積を求めよう **まとめ**

**見通し**  長方形に変えて求める  
たて 半径  
横 円周の半分

**考え**

**わかったこと** Aさん Bさん Cさん **振り返り**

**【板書の基本】**

- 楷書で、正確に丁寧に！
- 学年や実態に合った漢字使用
- 文字の大きさ
  - 一般的には12cm四方
- 見えやすく
  - 照明や日光、色や囲み、色の見え方に困難を感じている子どもにも配慮して
- 消し方にも一工夫
  - 要点のみ残して焦点化を

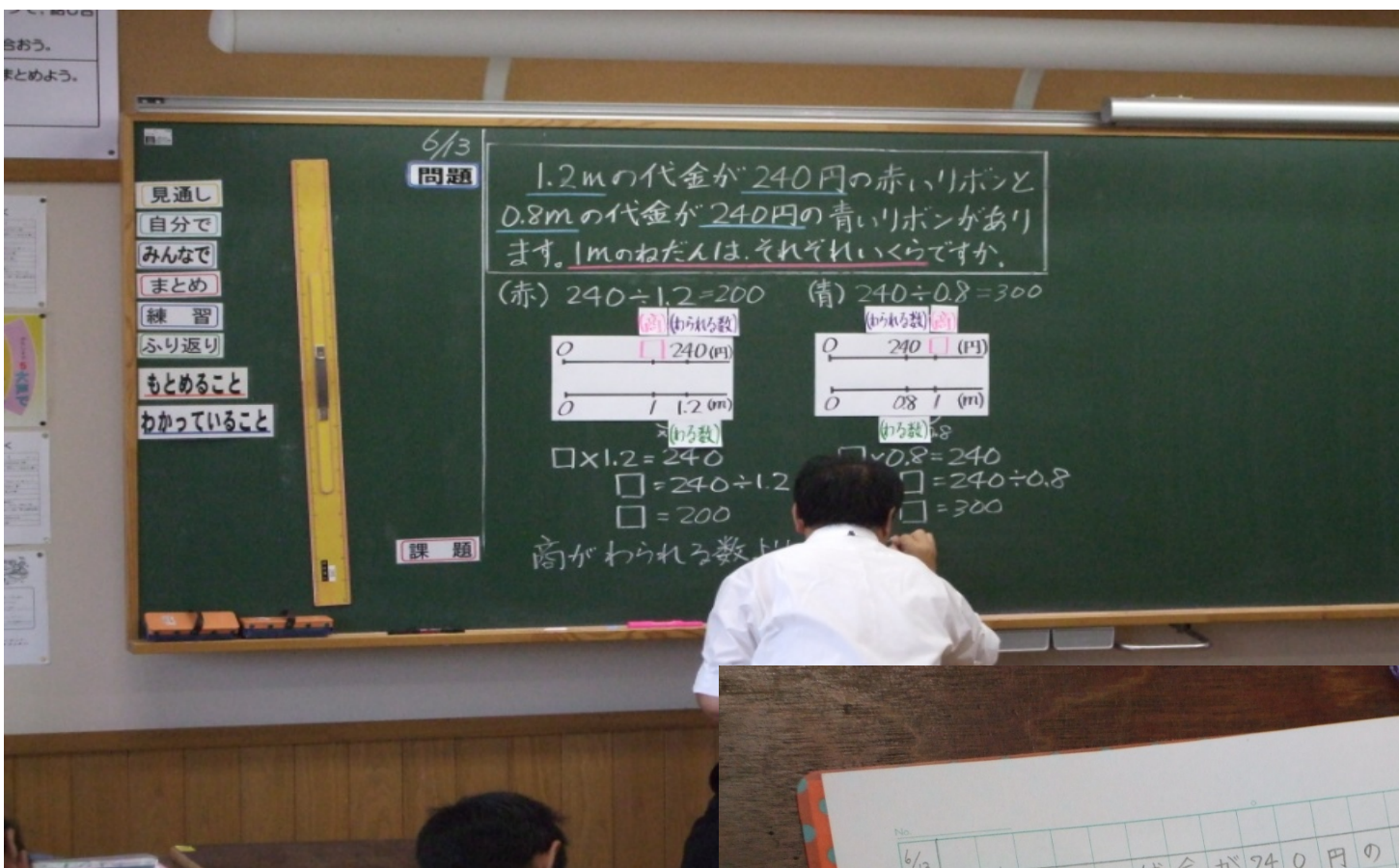
**【子どもの思考を活用】**

子どもの考えや方法を、授業で生かすことが重要！カードや小ボードに記入させ、発表させた後、提示するなどの工夫を！

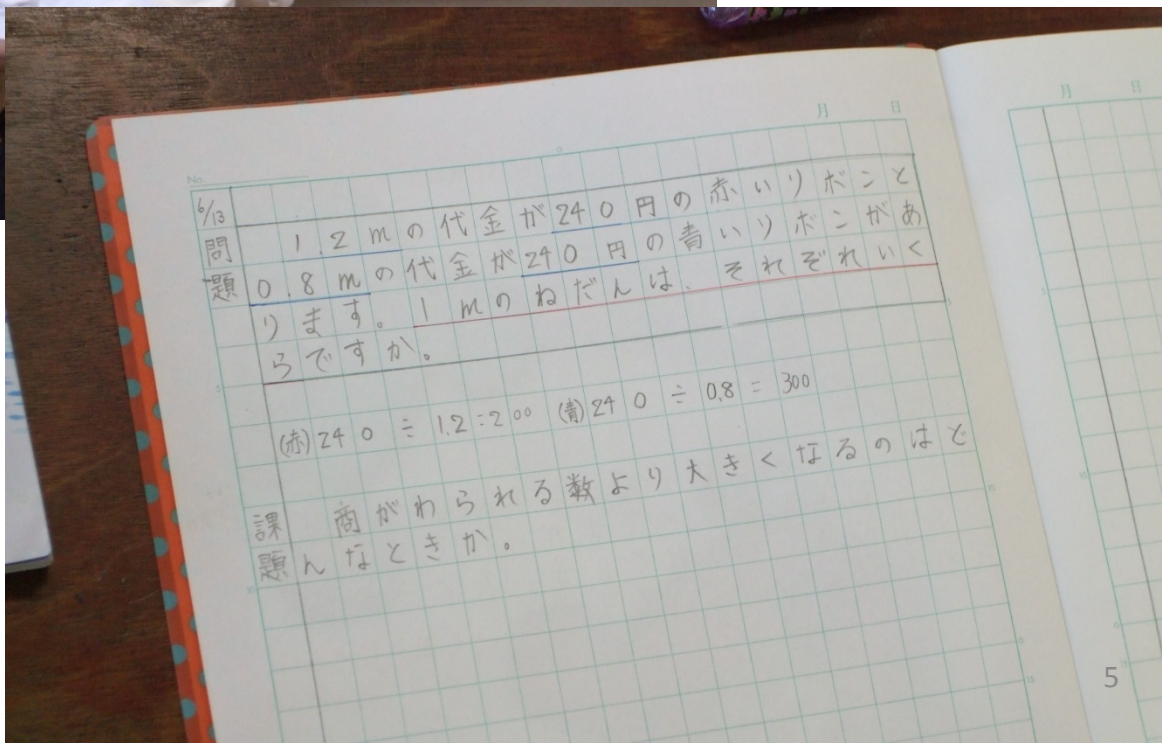
**【子どもと共に創り上げる板書】**

- 子どもを黒板の前で活躍させる
- できるだけ子どもの言葉を活用する
- 板書内容、書くタイミングを計画する

秋田県は総合教育センターホームページにて、「あきたのそこちから」と題する指導資料を公開している。



秋田モデルは小学校の10割、  
中学校の8割が実践



# 秋田方式に学ぶ他都道府県



## 新大分スタンダード

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の魅力ある授業

- 1 1時間完結型  
(「めあて」と「振り返り」のある授業)
- 2 板書の構造化・板書とノートの一体化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
- 4 問題解決的な展開の授業  
(単元 あるいは 1単位時間)

### 大分スタンダードの ブラッシュアップ

本時のゴール、  
目指す子どもの具体的な姿から  
単位時間の授業を見直す  
※ねらいに対応した  
具体的な評価規準の設定

### 生徒指導の3機能を意識して

- ① 学ぶ意欲を引き出す課題設定 (考えてみたい・やってみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための情報収集(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の整理分析(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことのまとめ・発信・交流
- ⑤ 学習の成果を実感させる単元の振り返り及び評価







指導方法の標準化は学校レベルでも実践され、成果をあげている

## 大岱小学校の取り組み

- 校内研究の進め方  
ワークショップ方式を含む
- まなブックによる学習方法、ノート指導
- 高知県教育センターがすでに紹介(教師が学び、教師が育つ。学校づくりプロジェクト事業)



# 子どもの自尊感情の高め方

- ソーシャルスキルトレーニング
  - 河村氏が学級文化調査(Q-U)と組み合わせたプログラム提供
  - 多様なプログラム提供主体
- コーチング
  - ビジネス界で広まりつつある意欲喚起策
  - 佐古氏の「承認」はコーチングの主要概念
- 授業において聴き合う関係、支え合う関係の構築
  - 佐藤学「学びの共同体」の主効果は「ケア」=支え合う関係の構築
  - 聴き合う関係を構築することで不登校をゼロにした学校もある
- いずれの手段によっても子どもの自尊感情を高めることは可能

# 聴き合う関係の構築

## 聴き方

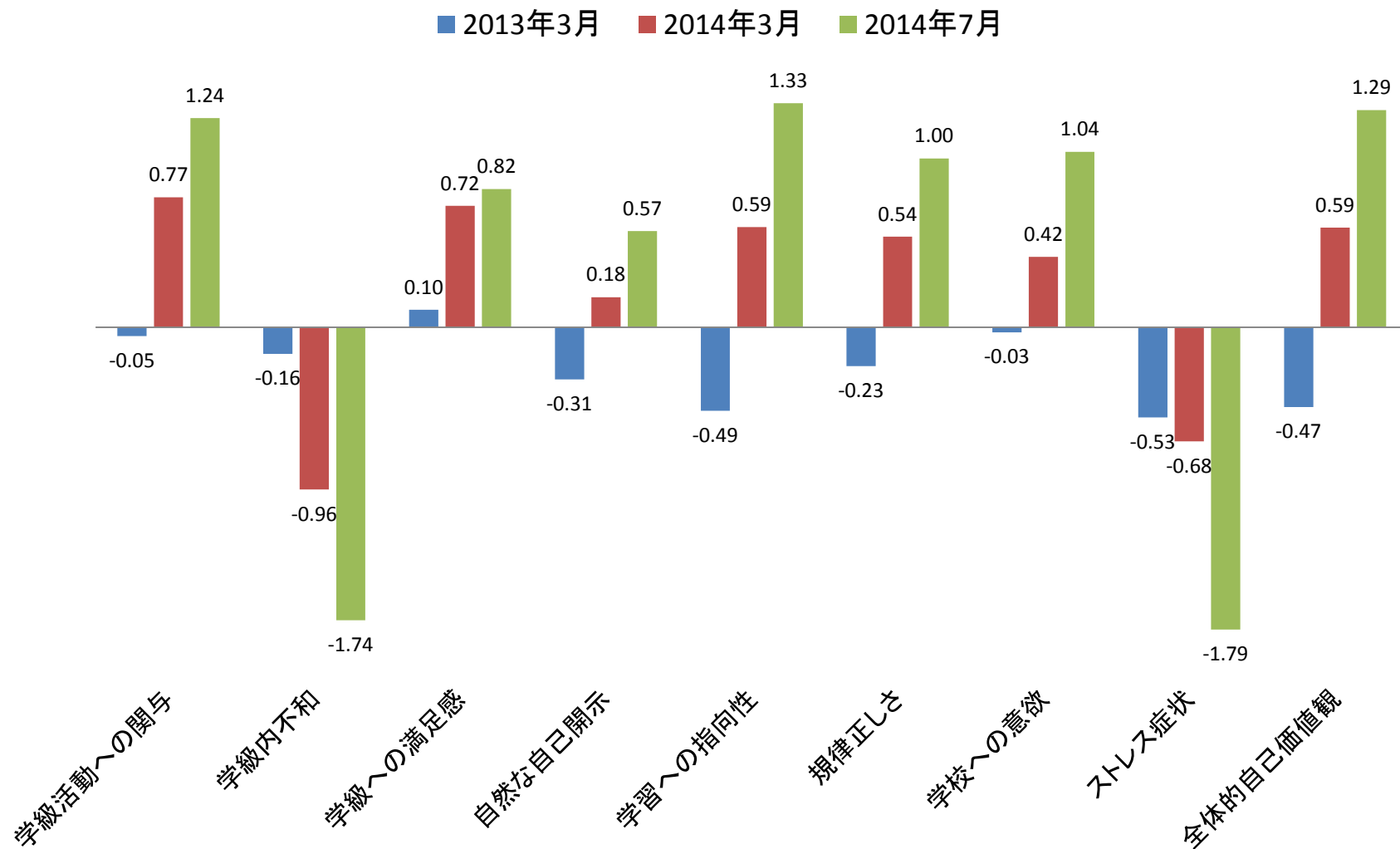
- 発言しようとする友だちの方向を向いて聴いている。
- 友だちの発言が聞こえないとき「もう一回言ってください」と言う。
- 友だちの発言が自分と同じとき「同じです」と言う。
- 友だちの発言で意味の分からないところは「よく分かりません」と言う。(分かっているはずなのに「同じです」と反応していたら、教師が「分かった？」と尋ねる)
- 友だちの発言に対して、つけたし、反対などの発言をつなげる。
- 発言するとき言う内容を忘れても非難されない。「忘れました」

## 相談の仕方

- 迷ったら自然に相談している。
- 分からないときは友だちに教わろうとしている。分からない子に教えようとしている。



# 聴き合う関係を指導した学校における学級文化の変容

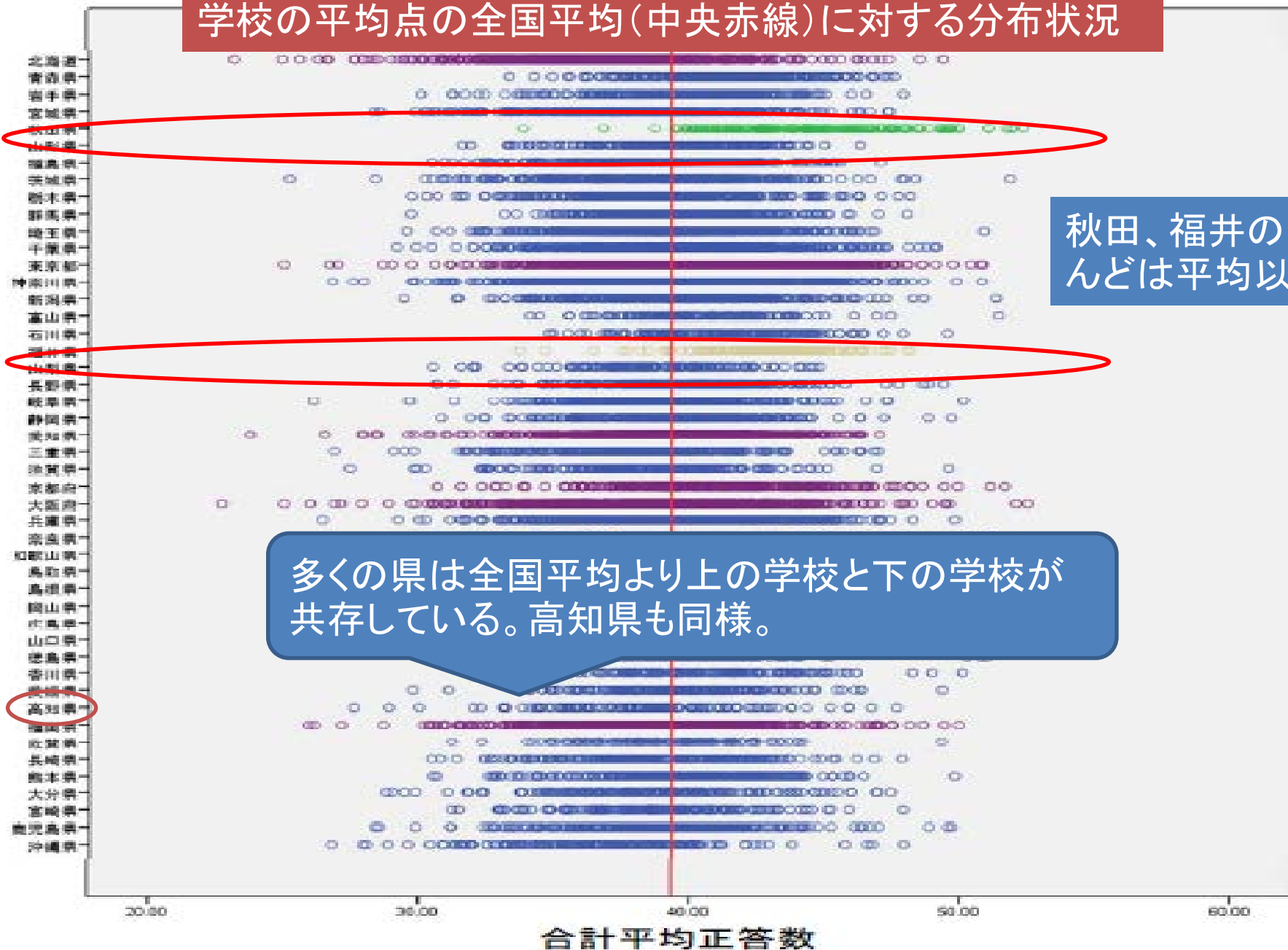


# 本日の内容

1. 高知県の教育課題の解決に向けて
2. 目指す授業が実施されるための学校経営の重要性
  - 秋田、福井は県全体の学校の水準が高い→一部の研究校、一部の教員の力量が向上するだけでは県の水準は向上しない
  - 県の体制→学校の体制→教師集団の文化→個々の授業→児童生徒の学力の連関構造を意識する
3. 目指す学校経営が行われるための都道府県の体制



# 学校の平均点の全国平均(中央赤線)に対する分布状況



秋田、福井のほとんどは平均以上

多くの県は全国平均より上の学校と下の学校が共存している。高知県も同様。

合計平均正答数

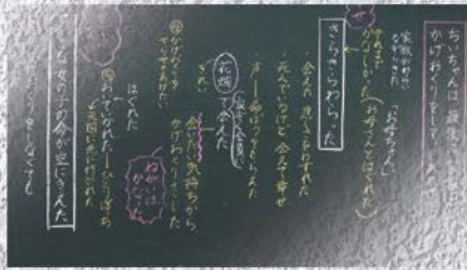
田中博之ほか「全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究」2011年



# 結果が出る

## 小・中OJT 実践プラン20+9

千々布敏弥 [編]  
(国立教育政策研究所総括研究官)



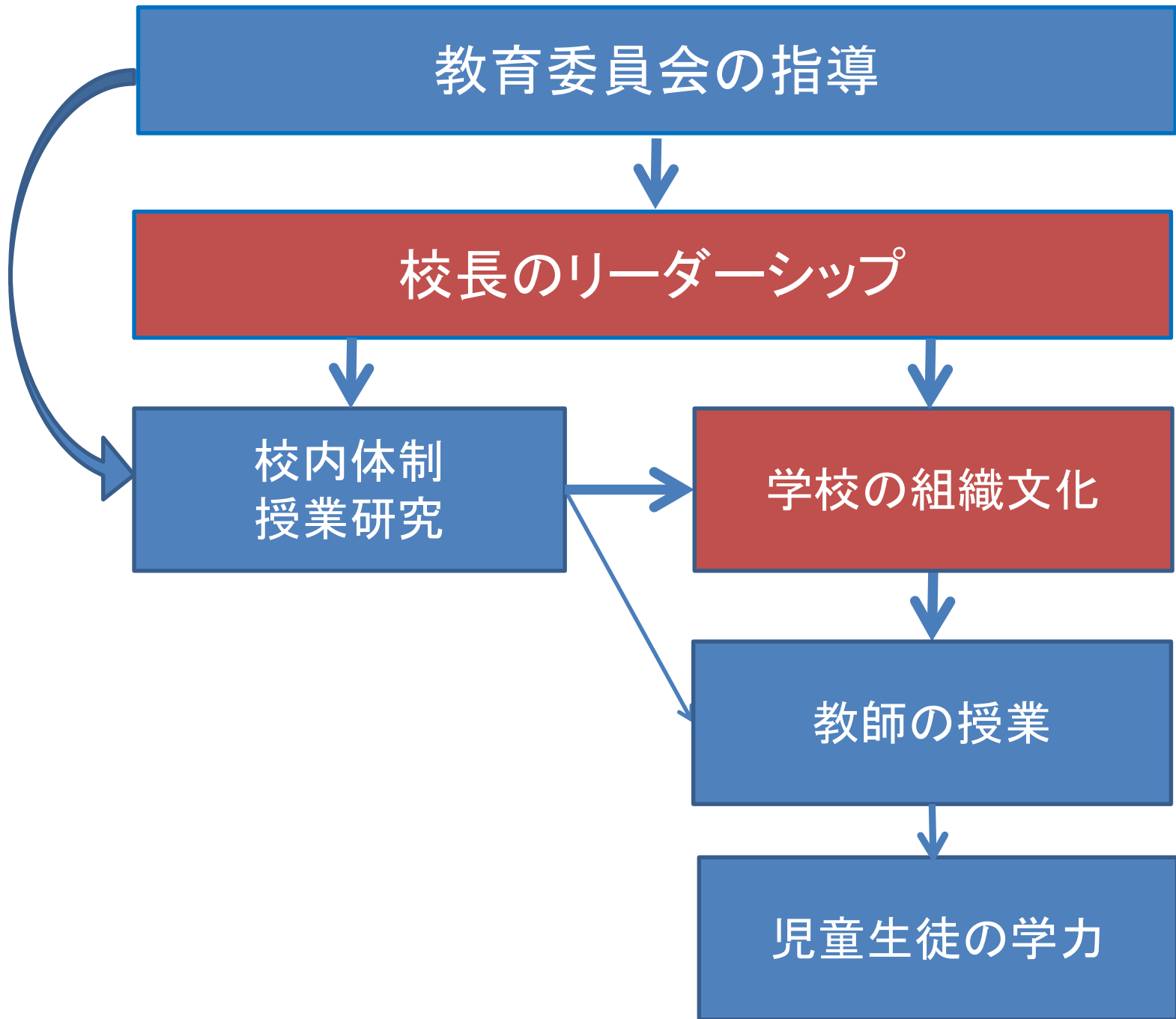
授業力不足の教員をつくらない  
指導法はこれ!

学力調査で常にトップクラスの県、  
近年飛躍的に順位が向上した県の  
小・中学校が行っている OJT プランを多数紹介!

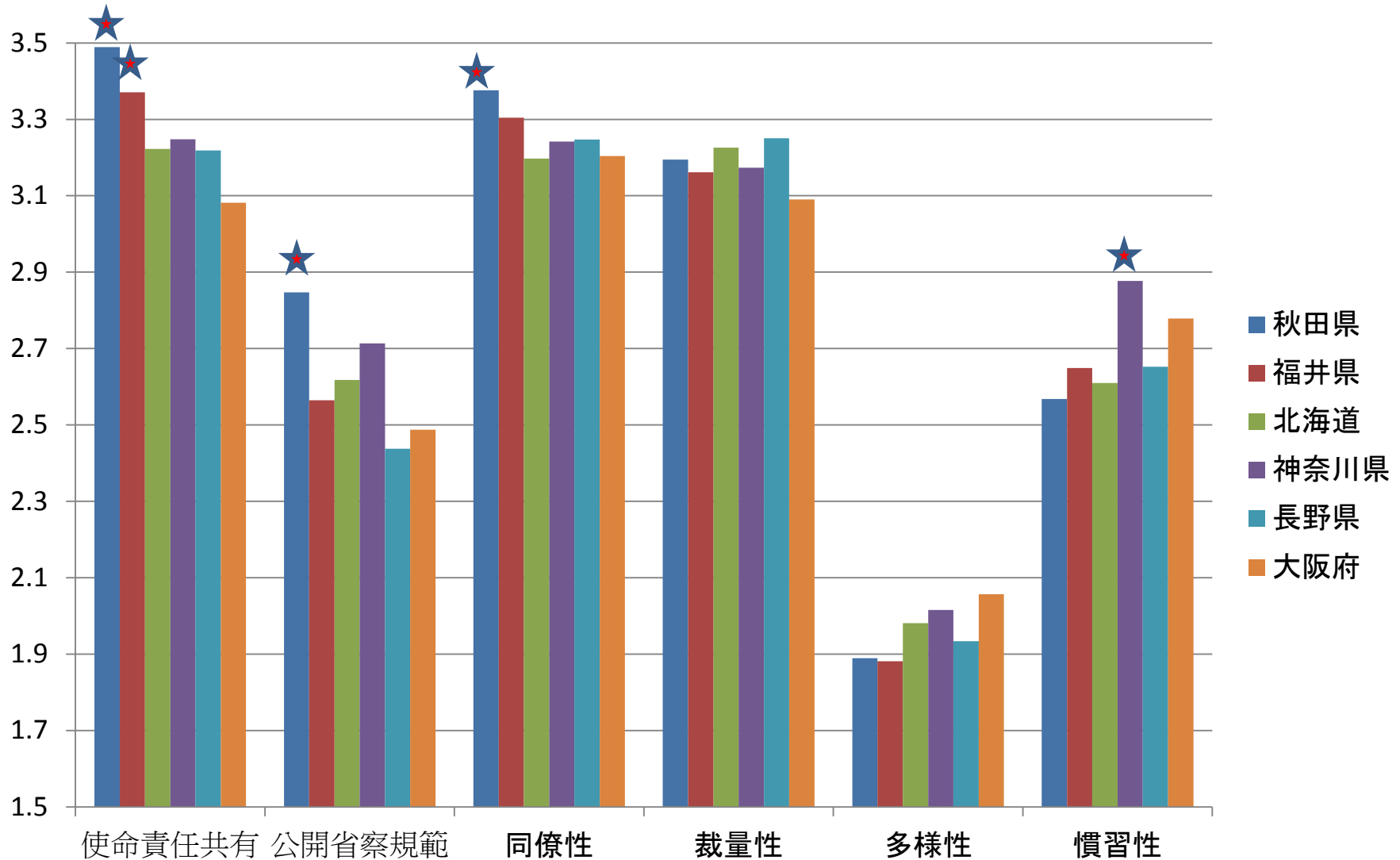


教育開発研究所

秋田、福井の学校は、  
学校評価や学力調査の  
データを活用した学校  
経営のPDCAサイクル  
が有効に機能している



# 秋田・福井は学校文化もよい

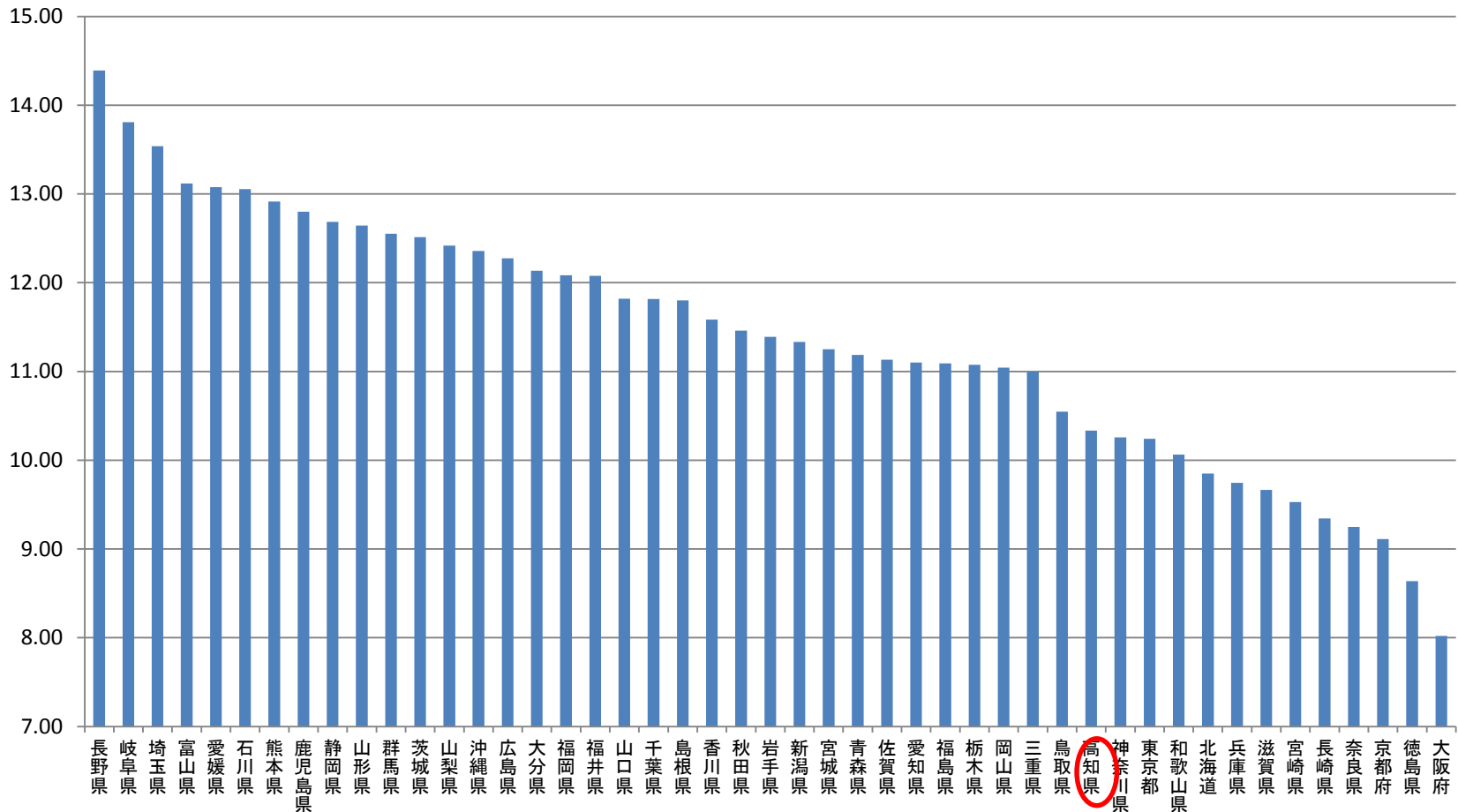


★ 6道府県間でTukeyのHSD検定による多重比較を実施し、他道府県と5%水準で有意な差が見られたもの

# 国立教育政策研究所

## 「校内研究の実施状況調査」(2010.2)より

### 校内研究水準の都道府県平均

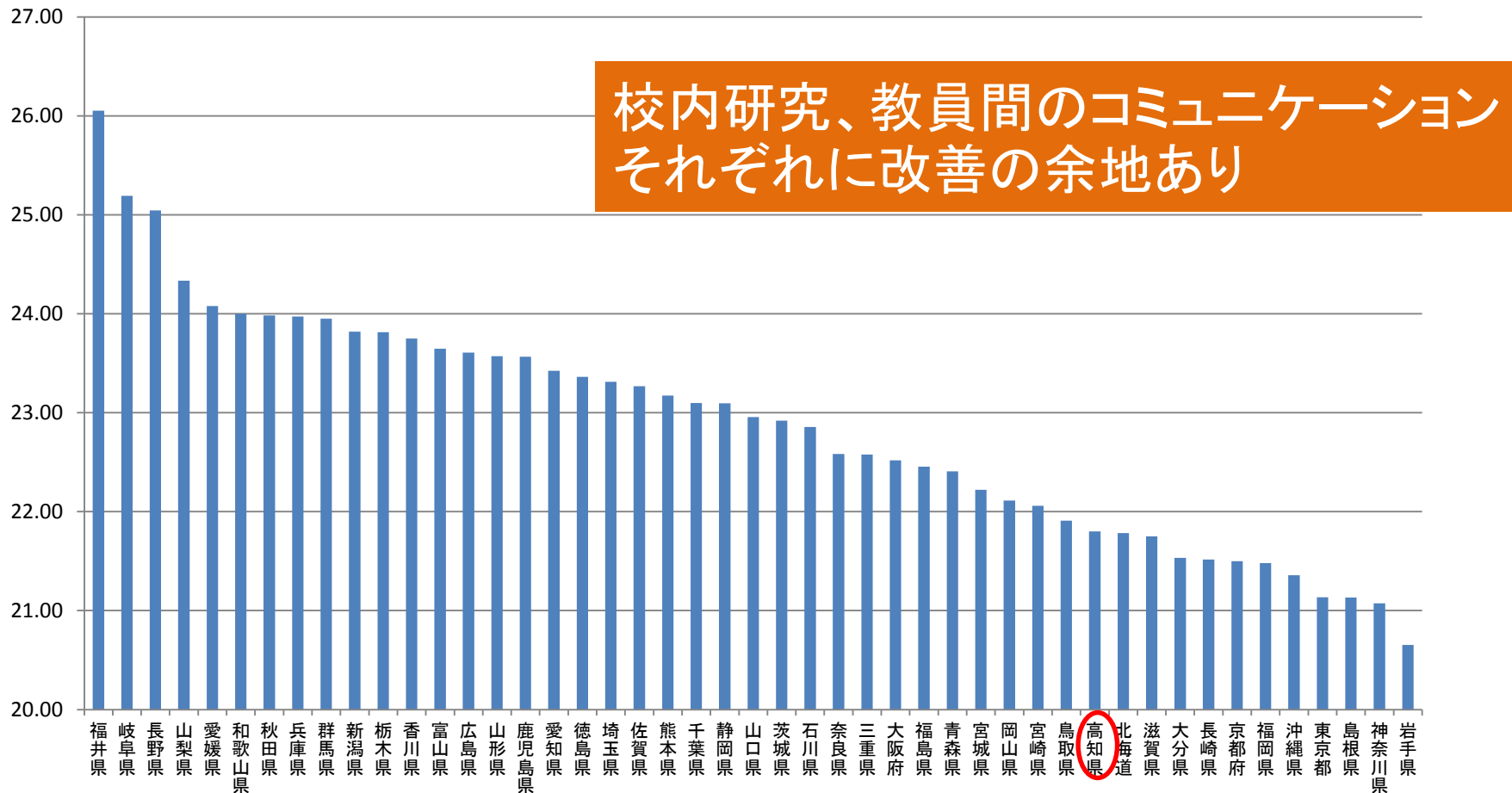


国立教育政策研究所『教員の質の向上に関する調査研究 報告書』2011の  
データを基に千々布作成

# 国立教育政策研究所

## 「校内研究の実施状況調査」(2010.2)より

### 【教員間のコミュニケーション＋授業力＋学力】の県平均

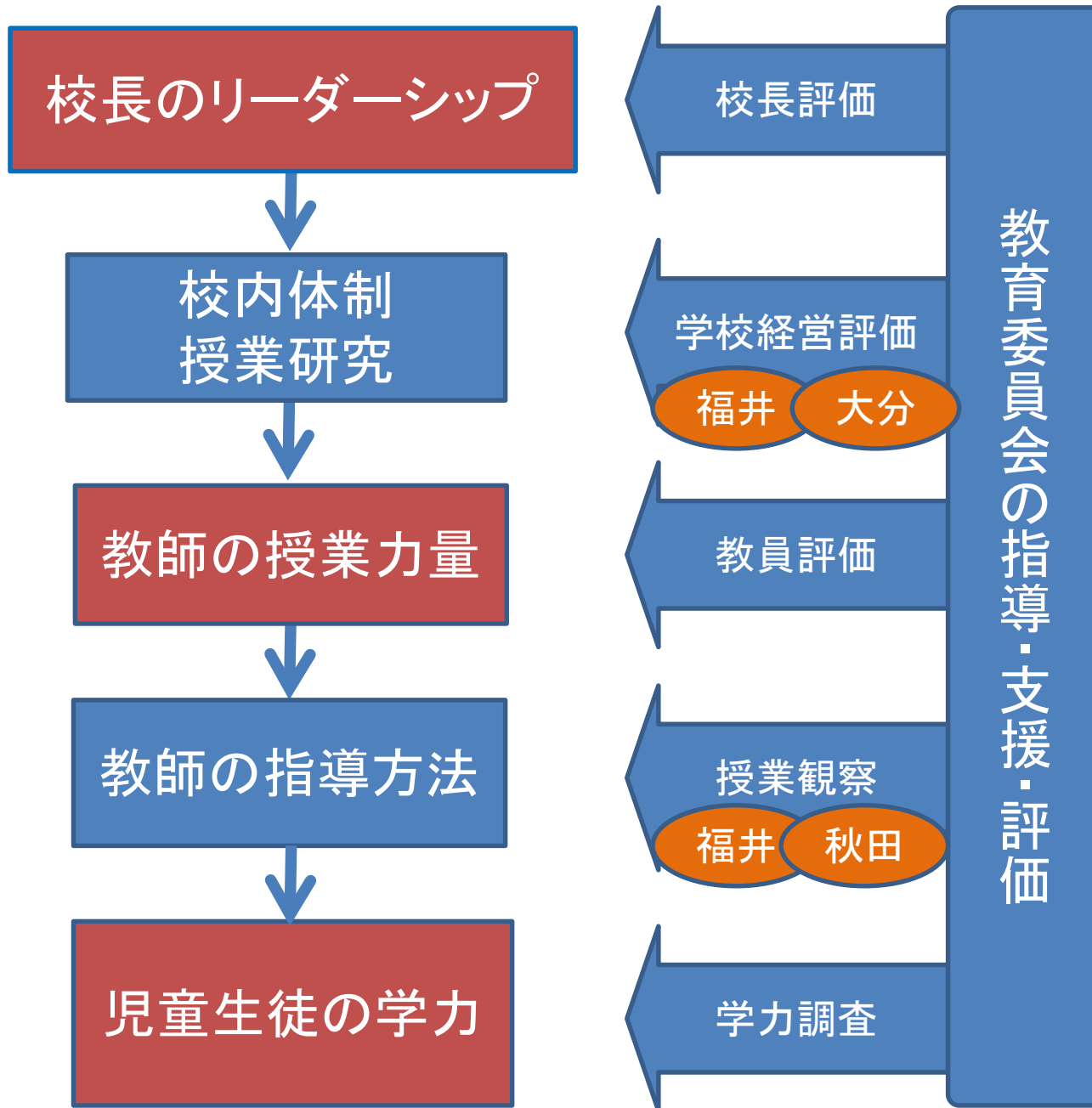


国立教育政策研究所『教員の質の向上に関する調査研究 報告書』2011の  
データを基に千々布作成

# 本日の内容

1. 高知県の教育課題の解決に向けて
2. 目指す授業が実施されるための学校経営の重要性
  - 秋田、福井は県全体の学校の水準が高い→一部の研究校、一部の教員の力量が向上するだけでは県の水準は向上しない
  - 県の体制→学校の体制→教師集団の文化→個々の授業→児童生徒の学力の連関構造を意識する
3. 目指す学校経営が行われるための都道府県の体制

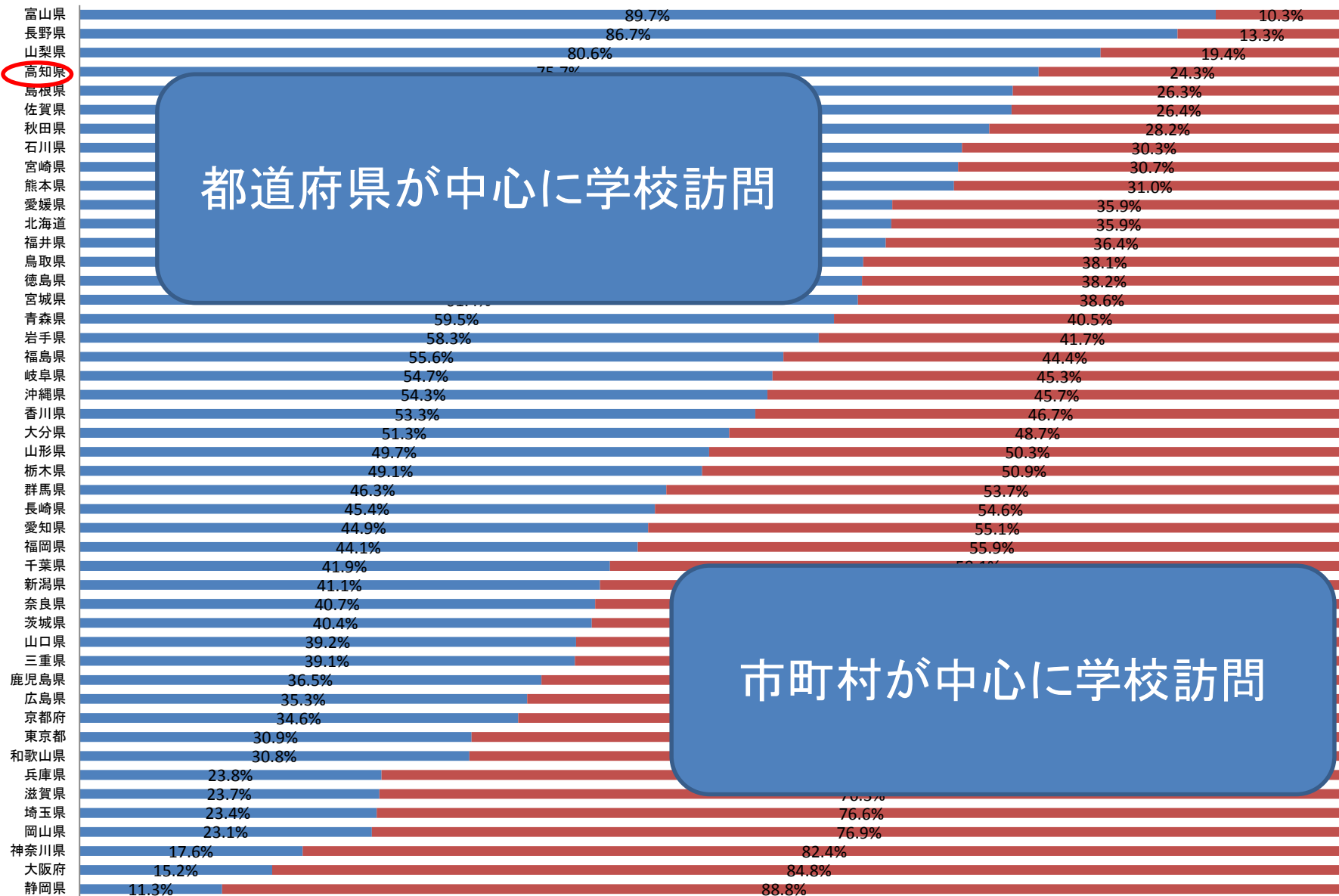




どこに力を入れているか、県と市のリソース配分が県によって異なっている

# 指導主事配置状況は都道府県により異なる

指導主事配置比率(H23) ■ 都道府県 ■ 市町村



都道府県が中心に学校訪問

市町村が中心に学校訪問

# 秋田県中央教育事務所の学校訪問

8:40－9:10	経営説明・研究説明	主任指導主事が校長に質問、アドバイス
9:20－10:05	一般授業参観	校長の先導により各教室5分で参観
10:25－11:10	特定授業(算数)	
11:20－12:05	特定授業(国語、理科)	
13:30－14:35	協議会(国語、理科)	2教室に分かれて協議
14:45－16:05	協議会(算数)	1教室で2グループに分かれて協議
16:10－16:25	全体会	主任指導主事が教員全体に講話

# 事後検討会の机上には学習指導要領、学習指導要領解説、県の指導文書、事務所の指導文書



# 秋田県指導主事協議会

9:00—	開会、担当者挨拶、各教育事務所と教育センター、高校教育課が資料に基づき年間実践計画を報告。質疑
10:20-	市町教育委員会の報告
10:40-	休憩
10:45-	「 <u>授業改善のための観点</u> 」について協議
11:10-	高校入試の課題説明
12:00	休憩
13:00-16:00	本年度の重点事例研修(DVD使用)

# 各教科毎に本年度の重点を2～3つ焦点化 →本年度の重点に従い「授業改善のための観点」作成

## 算数・数学

→指針P 28,29

### ①「比較・検討」で学びの質を高める

- ◇問題を解決するための考え方や方法を「比較・検討」することで、児童生徒の数学的な見方や考え方の質を高める。
- ◇児童生徒の考えや教師の意図的な誤答を活用したり、問題の条件を変えたりするなどして「比較・検討」を行う。

### ②学習の授業の流れが分かる板書の工夫

- ◇数学的な思考力や表現力を育むことができるよう、学習の流れや解決の方法、手順などが分かる板書の工夫をする。

### ③ノートを活用した授業の実践

- ◇必要な情報を整理する力、分かりやすく構成する力、数学的な思考力、表現力等の育成を目指し、ノートを活用する。

#### 本県の課題

- ▶百分率や関数についての意味理解が十分ではない。
- ▶柱体の底面積や体積の求め方、球と円柱の体積比較の理解に課題がある。
- ▶根拠を明らかにして、筋道を立てて説明する力が十分に身に付いていない。

- ◎数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- ◎目的に応じて知識及び技能を活用し、問題を解決することができる。
- ◎方法や理由などを数学的に推論し説明することができる。



# 福井市の学校訪問

8:35－9:25	校長との懇談	校長室にて校長と指導主事のみ
9:35－10:20	提案授業(2年国語)	
10:20－10:40	研究主任との懇談	校長室にて
10:40－11:25	通常授業参観	3教室参観 15分ごとに移動
11:35－12:20	通常授業参観	2教室参観
12:20－13:05	給食	
13:05－13:45	生徒指導・教育相談懇談	校長室にて各担当者と懇談
13:55－14:40	通常授業参観	2教室参観
15:20－16:45	研究協議会	

# 福井県では全小中学校の学校経営計画 が公開されている



[くらし・環境](#)

[医療・福祉](#)

[しごと・産業](#)

[観光・文化](#)

[教育・子育て](#)

[県政情報](#)

[ホーム](#) > [組織一覧](#) > [義務教育課](#)

[ガイドナビを開く](#)

いいね! { 0 }

[ツイートする](#)

## スクールプラン 福井市 (1)

最終更新日 2015年6月15日 | ページID 011554 [印刷](#)

[トップページ](#) > [義務教育課](#) > [スクールプラン](#)

市町名	学校名				
福井市 (1)	木田小学校	豊小学校	足羽小学校	東安居小学校	湊小学校
	春山小学校	順化小学校	宝永小学校	松本小学校	日之出小学校
	旭小学校	和田小学校	円山小学校	啓蒙小学校	西藤島小学校
	社北小学校	社南小学校	安居小学校	中藤小学校	大安寺小学校
	河合小学校	麻生津小学校	国見小学校	岡保小学校	東藤島小学校
	殿下小学校	鶉小学校	粟小学校	鷹巣小学校	長橋小学校
	森田小学校	明新小学校	日新小学校	清明小学校	社西小学校
	本郷小学校	下宇坂小学校	羽生小学校	美山啓明小学校	越廼小学校

# 敦賀市では、校長が教育長らに10分でプレゼンし、質疑を受けている



<福井市学校教育目標>  
「郷土福井に誇りをもち、  
たくましく生きる子どもの育成」

<保護者・地域の願い>  
・明るいあいさつができる子  
・思いやりのある優しい子  
・自分で考え行動する子

<教師の願い>  
・夢や希望を持ち、将来に向かって羽ばたこうとする子  
・規範意識を持ち互いに協力し合える子

<学校教育目標>

創造的な学力とたくましい実践力に満ちた  
個性豊かな児童の育成

<めざす児童像>

- すすんで学びよく考える子
- すすんで助け合い思いやりのある子
- すすんでできたえがんばりぬく子

<光陽中学校区研究主題>

「地域や学校に誇りをもち、  
たくましく生きる児童生徒の育成」  
-自ら進んで課題を解決し、自分の考え  
を発信する活動を通して-

<児童の実態>

- ・素直に話が聞ける子
- ・与えられた課題に真面目に取り組む子
- ・のびのびと活発に行動する子
- ・自分で考えて行動できない子

研究主題 主体的に学習する児童の育成 ~共に学び合い、課題を解決する子をめざして~

重点目標

※ 下線部 は今年度の重点的目標や取組

確かな学力

- 自ら学ぶ子を育てる。
- 学び合い高め合う子を育てる。

豊かな心

- 進んで明るいあいさつができる子を育てる。
- 思いやりのある行動ができる子を育てる。

健やかな体

- 規則正しい行動ができる子を育てる。
- 心身の健康に心掛け、進んで運動する子を育てる。

地域「足羽」に根ざした学校

- ◎家庭・地域と連携して、信頼される学校づくりを推進する。
- 学校や地域「足羽」を愛する子を育てる。

具体的な取組

- ①自分の考えや思いを伝える子を育て、学び合いが生まれる授業を実践する。(特に算数)
- ②学び合いが生まれる土壌づくりを推進する。(共通の学習ルール)
- ③家庭での自主学習を推進する。(方法・内容等について丁寧に指導する。)(中・高学年)  
家庭学習の習慣化を図る。(低)
- ④重点的に扱う単元を決め、地域の人材を活用する等、体験的活動の充実を図る。

- ①家庭・地域と連携して、あいさつ運動を推進する。(家庭の中でのあいさつの強化)
- ②縦割り班活動を充実し、思いやりの気持ちや連帯感を高める。
- ③児童個々の内面の理解を大切に自己有用感や存在感を高めるような学級づくりを工夫する。(毎月の「心のお天気カード」の実施、担任との個人面談の実施、カウンセラーによる全員面談の実施等)
- ④いじめを起こさない人権教育や道徳教育を推進する。(人権週間の取組や一斉道徳授業の公開等)

- ①ルールやモラルなどの生活習慣の定着を図るための取組を家庭と連携して推進する。(「足羽の子」や「中学校区教育スタンダード」の活用)
- ②体育的行事等にめあてを持って取り組ませ、自己肯定感や達成感が持てる児童を育成する。
- ③登下校指導、交通安全教室、各種避難訓練を実施する等、危機回避能力の育成を図る。
- ④栄養教諭、養護教諭、担任による食育、健康教育の充実を図る。

- ①豊かな自然・歴史的な資源・地域の人材を積極的に活用する。各学年とも学習の成果を積極的に地域へ発信する。
- ②学校・学年だよりやホームページ等で情報を発信する。(毎月1回は発行・更新)
- ③高学年や保護者に向けて、ネット利用や情報モラルに関する講習会を実施する。
- ④保幼小中連携のほか、地域の広い世代との交流の充実を図る。(赤ちゃん・園児・中学生・お年寄り等)

数値目標

- ③週1回は自主学習に取り組んだ児童が80%以上。
- ④体験的活動を積極的に授業に取り入れた教員が95%以上。

- ①家庭であいさつができる児童が85%以上。
- ④命や人を大切に、困っている人を進んで助けたり声をかけたりすることができる児童が95%以上。

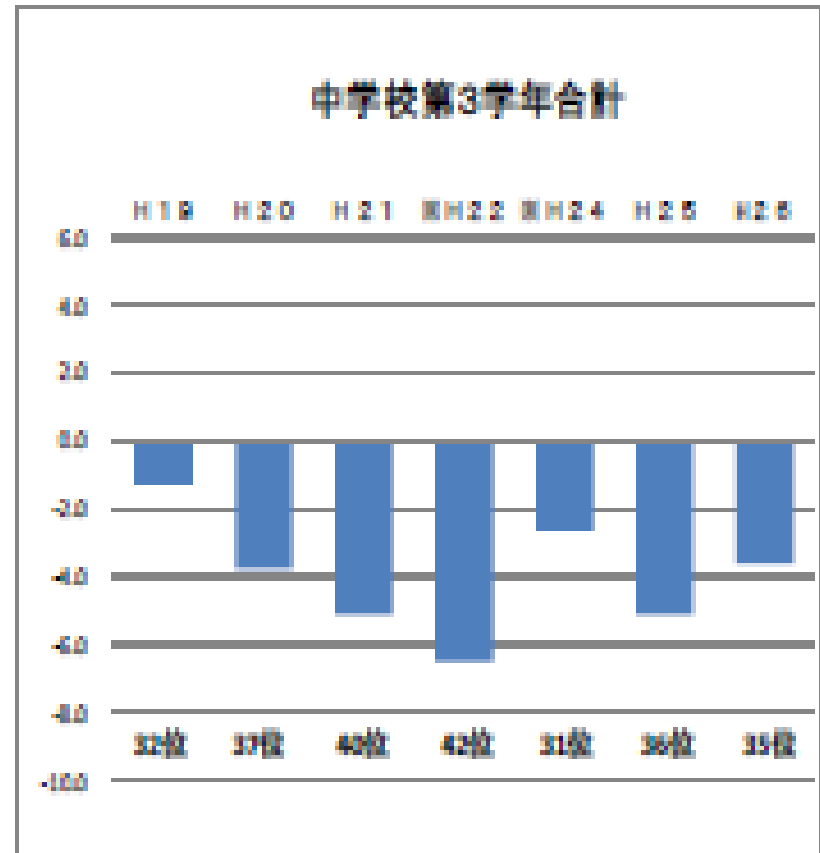
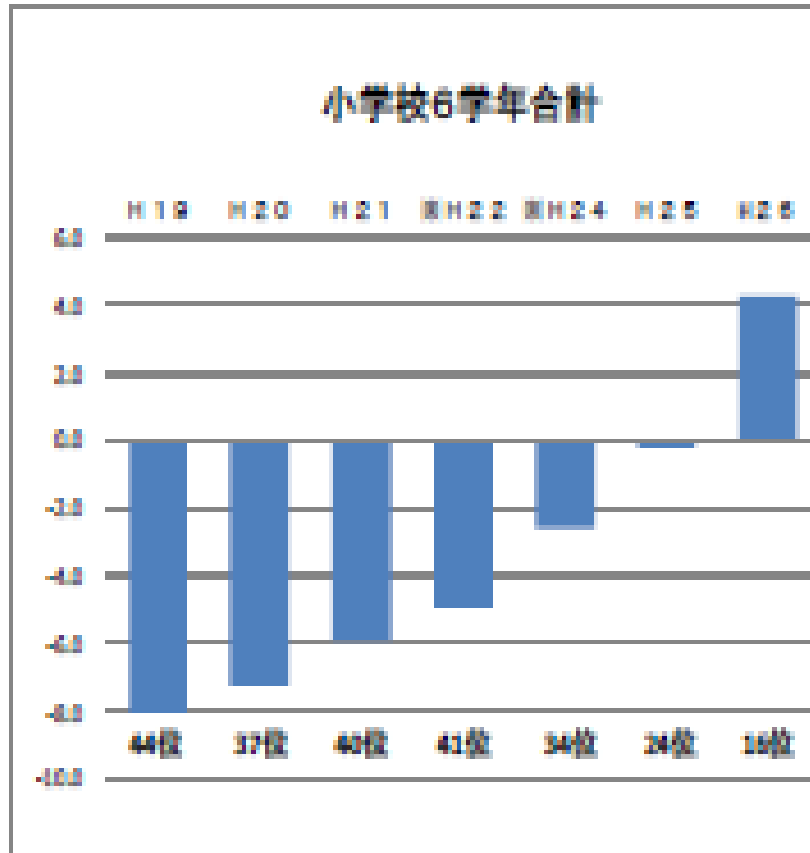
- ③避難訓練に真剣に取り組むことができ、緊急放送や先生の指示を聞き取ることができた児童が95%以上。
- ④食育や健康教育などの授業を、栄養教諭や養護教諭とのT・Tで積極的に行った教員が85%以上。

- ①学習の成果を地域の人に向けて発信する取組を行った教員が80%以上。
- ③ネット利用について、夜9時以降は利用しないというルールを守っている児童が90%以上。
- ④地域の他の世代と交流する活動が楽しい児童が95%以上。

福井県の学校経営計画は、重点目標、具体的な取り組み、数値目標の設定が特徴

多くの都道府県は重点目標の絞り込みができていない

# 大分県の改革



「組織的な学校運営ができるようになった」9割  
(2014年7月調査)



# 大分県の躍進の秘訣は 秋田方式の導入と学校経営改革

- 各教育事務所に学校改革担当指導主事を配置
  - － それまでは所長、次長、指導主事3名
- 教育事務所による学校訪問を年2回から3回に
  - － 所長訪問は年度当初1回→毎回所長も訪問
  - － 他の訪問は指導主事1人→所長、次長、学校改革担当指導主事、指導主事のチームで訪問
  - － 訪問時に8観点にしたがった自己評価シートの提出を求める

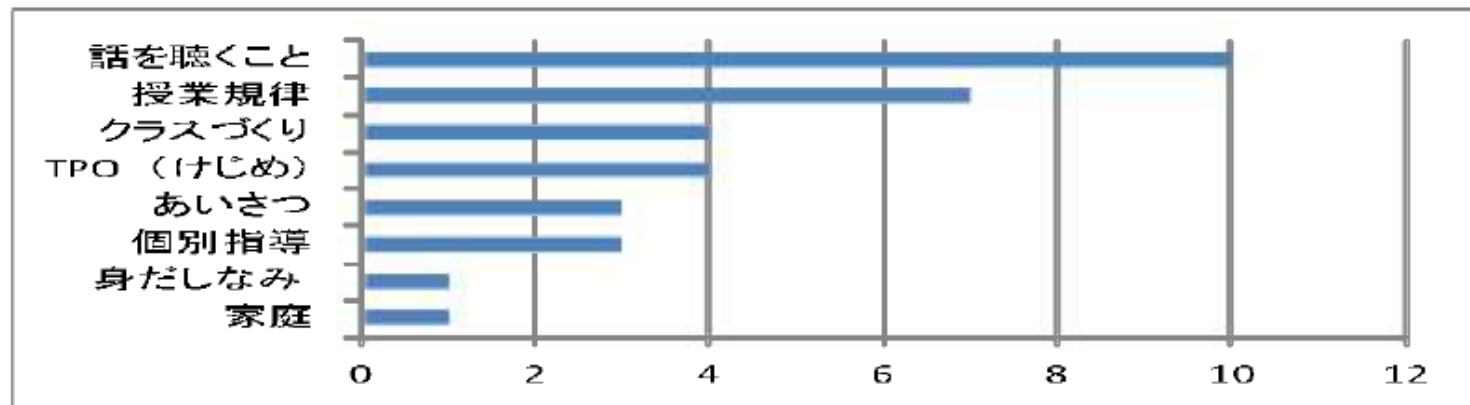
# 大分県「芯の通った学校組織」のための8つの観点

1. 学校の喫緊の課題を十分検討した上で、課題と重点目標を一致させること
2. 取組指標は、実際に取り組むことによって、児童生徒が変わり、重点目標達成に近づくことがイメージできる具体的なものとする
3. 重点目標、達成指標、重点的取組内容(重点的取組、取組指標)が、全ての教職員に共有されるよう、会議での取り上げ方などを工夫すること
4. 検証に当たっては、①取組指標に基づく取組状況をまず確認し、その上で、②その取組により重点目標達成に近付けたかを検証し、年度の中でも取組指標、重点的取組、達成指標を改善していくこと
5. 目標管理制度と人事評価制度の連動、及び、学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動により学校の組織力の向上等を図るという教職員評価システムの趣旨を一層徹底すること
6. それぞれの重点目標の達成を担う主任等を明らかにし、責任を与えること
7. 意思決定がより効率的・効果的に行われるよう、運営委員会や職員会議で扱う議題の整理や、職員会議によらない周知・徹底の工夫などを行うこと
8. 主任制度及び主任手当の趣旨が伝わるよう、人事異動に係る職員面談や年2回の目標管理面談等の中で、主任手当の拠出の状況について確認するとともに、法令の趣旨に則った指導を行うこと



## 【全教職員に対するアンケート結果】

本校の最大の課題は？（平成26年4月8日実施 教職員アンケートより）



（人）

### <主な意見>

- 話を聴くこと、全校で落ち着いて行動すること
- 落ち着きがない、TPOがわかっていない
- 個別の支援が必要な子が大変多い
- 普通学級にいる支援を必要とする子どもの個別指導と職員の共通認識
- お互いを大切にしたり、認めあったりする心が育っていない
- あいさつができない、あいさつの声が小さい
- 教師の指示が徹底しない
- きまりや規律が徹底できない
- 学習生活のルールが徹底されていない

「規律の徹底」に向けて、職員全体で共通理解しながら  
組織的に取り組むことの必要性

## 学校教育目標

支えあい、学びあう、たくましいA小児童の育成

重点目標	静かに人の話を聴くことのできる子の育成	人と物を大切にする子の育成
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童のアンケートで人の話をまっすぐ前を向いて聴くことができると答える児童の割合が80%以上</li> <li>○年間生活目標「静かに話を聴こう」のクラス単位の振り返りで全クラスが8割以上（赤色シール）を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机・椅子、その他、学校の落書きが0</li> <li>○年間生活目標「自分からあいさつをしよう」のクラス単位の振り返りで全クラスが8割以上（赤色シール）を達成する。</li> </ul>
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話を聴く姿勢についての指導を全職員で行い、授業→学年→集会と連動して指導する。特に、学年集会を共通理解した指導の場とする。</li> <li>○年間生活目標を「静かに話を聴こう」として重点的に取り組む。</li> <li>○授業規律を共通理解するためのガイドラインであるA小スタンダード（よりよい学びのために）を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活すべてを通じてあらゆる場面で公共物を大切にする指導を行う。</li> <li>○年間生活目標を「自分からあいさつをしよう」として重点的に取り組む。</li> <li>○△△中、△△小、□□小と連携し、地域の方と共に登下校時のあいさつ運動に取り組む。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校集会を月1回、学年集会を月1回行い、座る姿勢や話を聴く姿勢を指導する。</li> <li>○4月、9月、1月にクラス単位で振り返りを行う。</li> <li>○A小スタンダード（よりよい学びのために）の振り返りを児童に月1回行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○週の終わりに学級担任が落書きをしていないか点検する。</li> <li>○5月、10月、2月にクラス単位で振り返りを行う。</li> <li>○4月、9月、1月の登校指導で合わせて行う。</li> </ul>

# なぜ目標を絞る必要があるのか

- 従来の教育目標の具体策の項目を見ると全部で150項目以上あり、その中で今年の焦点化と呼んでいる重点取り組みとして33項目ありました。しかし、どの教職員に聞いても覚えていないし、意識している様子はありませんでした。
- 一般の人間の能力では、重点課題として全力投球で取り組める内容は最大5項目が限界であり、通常は3～4項目が適切であるといわれています。

# なぜ目標を絞る必要があるのか

- このような背景があり、重点活動を4つと定めたのですが、職員からは、たった4つだけやればよいのですかという意見が多く出ました。
- 一年間4つの重点活動を実施した結果、とても忙しくてやりきれなかったという声が多く上がりました。

# 大分県の訪問体制（H26年度～）

## 佐伯教育事務所

指導主事3名、改革担当指導主事1名（新設）、管理主事1～4名

所長、次長、指導主事1名、改革担当指導主事1名が訪問（以前は指導主事1名で訪問）

9:00－9:10	学校説明	
9:10－9:25	質疑	改革担当指導主事、管理主事、所長が意見・質問
9:25－9:55	通常授業参観	
9:55－10:10	授業講評	指導主事、次長、所長が講評

# 高知県の訪問体制（平成24年度）

東部教育事務所	中部教育事務所	西部教育事務所
計画訪問＋要請訪問	要請に基づき訪問するものの、全体を訪問するようにしている	計画訪問のみ
学校経営計画の説明を受け、研究授業を中心に参観（通常授業の参観なし）	学校経営計画、校内研究計画の説明を受け、通常授業と研究授業を参観している	学校経営計画、校内研究計画等の説明を受け通常授業と研究授業を参観している
指導主事一人で訪問	指導主事一人で訪問	指導主事一人で訪問
指導主事10名、管理主事0名、学校経営アドバイザー	指導主事16名、管理主事0名、学校経営アドバイザー	指導主事10名、管理主事0名、学校経営アドバイザー

# 改善の視点

- 学校経営計画

- 発想は間違えていない！
- 知、徳、体の区分の見直しはできないか

参考：教育課程企画特別部会「資質能力の3つの柱」

- i) 「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」
- ii) 「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」
- iii) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」

以下のような情意や態度を含む。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など。
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

- 学校経営計画の自己評価過程を第三者的に評価するシステムの構築



プロフェッショナル・  
ラーニング・  
コミュニティによる  
**学校再生**

日本にいる「青い鳥」

千々布 敏弥 著

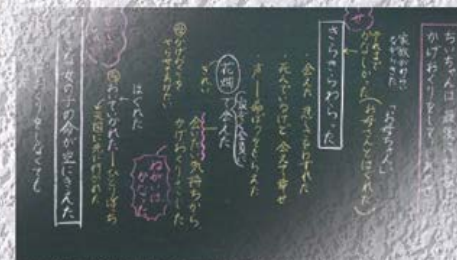


教育出版

# 結果が出る

## 小・中OJT 実践プラン20+9

千々布敏弥 [編]  
(国立教育政策研究所総括研究官)



授業力不足の教員をつくらない  
指導法はこれ!



教育開発研究所

学力調査で常にトップクラスの県、  
近年飛躍的に順位が向上した県の  
小・中学校が行っている OJT プランを多数紹介!